

令和４年度 第１回釧路市地域ケア会議 委員からの意見等の集約結果

ご意見

現状としてリハビリ職種が地域によって行政の方々や他職種の方々と十分に連携がとれていない課題があるため、気軽に連携が相互にとれるような関係性を構築できるように、引き続き理学療法士、作業療法士、言語聴覚士会で取り組んでまいります。

介護予防事業や地域ケア会議等で自立支援や予防に対して役割を果たしていけるように取り組んでおりますので、お声掛けをよろしくお願いいたします。

当院でも地域で心配な高齢者や処遇困難事例など、日々多くのケースを地域包括支援センターに相談しています。要支援認定を受ける高齢者の数が増え、各地域包括支援センターの相談件数も増加しており、業務過多でご苦労されているのではないのでしょうか。

特に、認定を受けても今はサービスはいらないと高齢者自身は感じているが、地域からみれば心配な高齢者などの見守りには限界があると思います。安心ネットワークだけではなく、医療機関としても受診している高齢者の生活状況を確認するなどの協力は今後もしていきたいと思います。

釧路市の令和３年度末（令和４年３月末）の、高齢者人口の状況を見ると７０歳以上の割合が、全人口の２７．２％と４分の１を占める状況になり、６０歳～６９歳と合わせて総合すると、４１．７％となっています。釧路市においても財政状況を考えるときに、若年者の負担は大きくなることとなり、全国的に考えても若年者との比率は切迫するばかりです。

国・道・市の助力を待つのは勿論、高齢者自身も、自立する方向を考えるとときと感じます。